

令和元年度湖山池会議の開催概要について

令和2年4月21日
 暮らしの安心局水環境保全課
 水産振興局水産課
 河川課

湖山池に関する事業の方向性、情報共有などを行うことを目的として湖山池会議を開催したので、概要を報告する。

- 日時等 令和2年3月24日（火）午後2時から3時まで 鳥取市役所
- 出席者 県：高橋統轄監、鳥取市：羽場副市長、湖山池環境モニタリング委員会：日置会長 関係部長ほか
 ※湖山池会議（H22年6月設置）：平成18～22年にかけて、アオコ発生とヒシの腐敗による悪臭等で、池周辺の生活環境が悪化したことから湖山池の環境改善や水管理の方向性を示す「湖山池将来ビジョン」を検討・策定し、汽水化等の施策を推進するため、県と市で構成（統轄監・副市長トップ）する共同プロジェクト、意思決定の場。

3. 主な結果

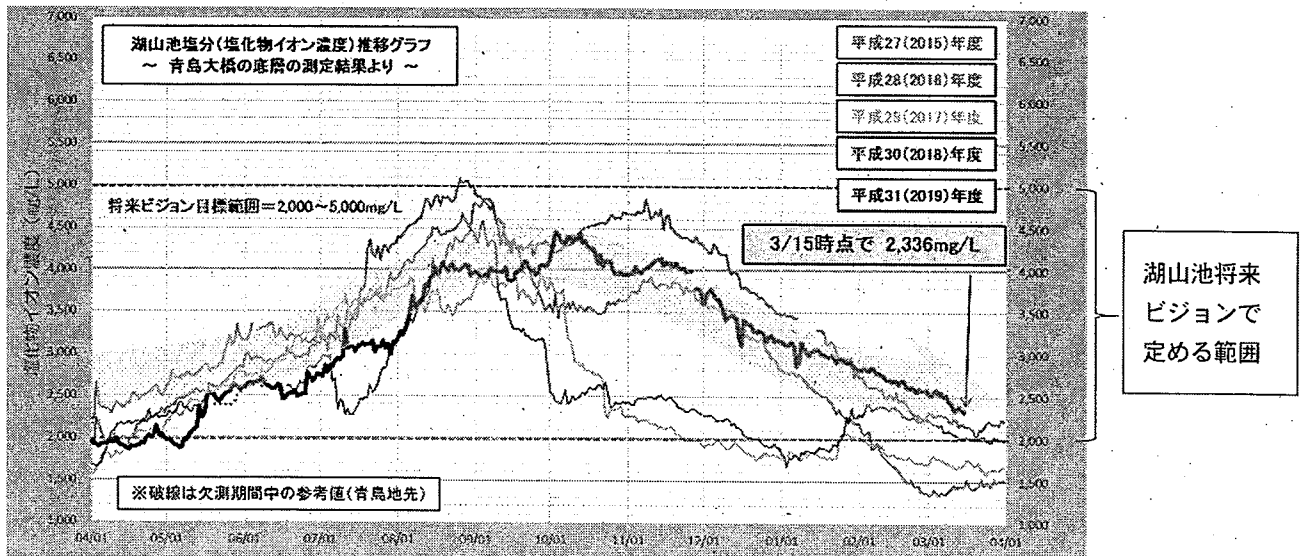
(1) 令和2年度の塩分濃度の管理方針等

- 令和元年度の塩化物イオン濃度は年間を通じて、概ね将来ビジョン範囲内で推移した。
- 水質は、平成25年度に悪化したのが、以降は改善した。CODは目標値を達成し、全窒素及び全りんは改善傾向と見られ、湖山池将来ビジョン計画目標値に近づいた。透明度は、0.6～0.8で概ね横ばいで推移している。
 （単位：mg/L、透明度：m）

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	計画目標値
COD (75%値)	7.9	7.0	5.7	5.5	5.1	4.7	5.5 以下
全窒素 (年平均値)	1.20	0.87	0.75	0.67	0.76	0.78	0.60 以下
全りん (年平均値)	0.190	0.120	0.100	0.092	0.073	0.078	0.066 以下
透明度 (4-11月平均値)	0.75	0.79	0.83	0.77	0.64	0.70	1.0 以上

- 汽水域再生に係る塩分濃度の管理については、海水の1/10から1/4程度とし、水質や周辺環境の影響等をモニタリングし、適正な塩分濃度を見極めながら管理することとしており、令和2年度は、次の方針で管理する。

塩分管理	<ul style="list-style-type: none"> ○春季は、湖山池将来ビジョンに定める範囲内（2,000～5,000mg/L）で可能な限り、低値で推移させる。 ○夏季は、溶存酸素の確保に最大限配慮しつつ、5,000mg/L以下の管理をめざす。
水門操作	○湖山川河口部の水門（オーバーフロー構造（上越通水））について、溶存酸素を監視しつつ、きめ細やかに操作する。



(2) 報告事項

【水質及び調査研究】

①汽水化に伴う周辺環境等に関する中間評価（水環境保全課）

- ・平成24年3月の汽水化から8年が経過することから、中間評価について、令和2年9月中に完成するよう取り組む。

②湖内流動の解明に係る調査（衛生環境研究所）

- ・湖底の流動について、海水遡上時は池口から池北岸（最深部の東側）に向かって海水が流入することを実測により、初めて確認した。
- ・日置会長からは、実測されたことのない流動状況を実測したことについて、今後の水質や塩分コントロールをする上で、有効なデータ等となるので、今後の調査に期待する旨、発言された。

【水質改善対策】

河川環境整備事業（河川課）

- ・護岸整備に伴い必要となるヨシの移植について、専門家の意見を聞きながら、鳥類の飛来などに配慮した移植方法等を検討する。
- ・覆砂について、過年度に実施した試験施工箇所において、浅部（水深-2.5m、-3.0m）では、底質の改善効果（湖底の貧酸素化の抑制や栄養塩溶出の封じ込めなど）が維持されており、引き続き浅部で実施する。

【水産振興】

ヤマトシジミの漁獲量・資源管理等について（水産課）

- ・令和元年のヤマトシジミ漁獲量は、104t（漁獲高約8,300万円）で順調に推移している。
- ・県では資源量調査等を継続し、持続的な漁業となるよう湖山池漁業協同組合と連携して取り組む。

【利活用】

①住民等との意見交換会の概要（鳥取市）

- ・周辺地区住民を対象に、水質や事業の実施状況等について、意見交換を実施した。
（参加者の主な意見）
「汽水化によってアオコやヒシが無くなったのは良い」、「シジミが獲れるようになったのは一つの成果だが、淡水性の魚や植物については課題がある」等

②利活用等の推進（鳥取市）

- ・湖山池情報プラザ等が、イベントを開催した。
春秋のウォーキング大会（計約1,000名参加）
魚釣り体験、バードウォッチング
秋の一斉清掃（約100名参加）
アダプトプログラム（23団体加盟）による清掃活動 等